



三芳町長 林 伊佐雄氏

町長のメッセージ

三芳町は自然に恵まれた「都心から一番近い緑のオアシス」として三富新田を代表する畑や武蔵野の平地林が織りなす良好な田園風景が広がっています。

また、日本農業遺産にも登録されている「武蔵野の落ち葉堆肥農法」を代表する首都近郊農業が盛んな町です。

三芳町は、令和元年「SDGsのまちづくり宣言」を行い、SDGs17の目標と各施策を関連づけて持続可能なまちづくりを推進しています。

地方自治体が、環境・経済・社会の課題解決に向けてSDGsの目標達成に取り組んでいくためには、今後、企業、NPO、関係団体、住民等とのネットワークの構築を進めていくことが重要であると考えています。

はじめに

三芳町は、埼玉県の南西部、都心から30km圏に位置し、北は川越市とふじみ野市、東は富士見市と志木市、南東は新座市、南西は所沢市と接している。町の中央よりやや西側を関越自動車道、やや東側を国道254号(川越街道)が南北に走り、関越自動車道の三芳スマートICや所沢ICも身近に利用できる。

三芳地域の開発は江戸時代に入り本格的に進められた。元禄7(1694)年には川越藩主・柳沢吉保さんともによる「三富新田開拓」が実施され、それまでの原野が、美しい雑木林や整然と区画された広大な三富の畑となり、武蔵野を代表する景観となった(表紙写真)。

昭和40年代の高度経済成長期には、農村地域であった三芳町も、都心から近いという立地条件から、首都近郊のベッドタウンとして、また首都圏の流通基地としてめざましい変貌を遂げ、人口も急増した。一昨年、町制施行50周年の節目を迎え、現在は農・商・工のバランスのとれた町として発展を続けている。



フルインター化工事中の三芳スマートIC・計画平面図

三芳スマートICのフル化等整備事業

町の「西の玄関口」として関越自動車道三芳スマートICのフルインター化に向けた本体工事が、令和3年5月に本格着手された。三芳スマートICフル化等整備事業は、平成27年に国土交通省の許可を受け、三芳町とNEXCO東日本により進められている事業である。三芳スマートICは三芳パーキングエリアに連結しており、平成17年より運用が開始された。現在は、新潟方面への出入りが可能なハーフ運用で、普通車(車長6m以下)のみ通行できる。フル化等整備により、東京・新潟の両方面とも出入りが可能になり、利用車種も全車種(車長12m以下)にまで拡大する。これにより、住民の生活利便性の向上、地域活性化の促進、防災力の向上などさまざまな効果が期待されている。

さらに、町では地域産業の活性化と雇用の促進を図るため、三芳スマートIC周辺を「みどり共生産業ゾーン」に定め、企業誘致・留置を進めている。すでに、物流関連の新たな企業の進出や既存企業の事業拡大といった成果が見られている。

日本農業遺産認定「武蔵野の落ち葉堆肥農法」

かつて武蔵野地域(川越市、所沢市、ふじみ野市、三芳町)は、火山灰土に厚く覆われ、作物を栽培するには自然条件的に厳しい土地だった。しかし、江戸時代における当地域の新田開拓において、畑と一体的にコナラ・クヌギなどの落葉広葉樹を植え平地林を育て、その落ち葉を集めて堆肥にし、畑にすき込む

三芳町概要

人口(2022年3月末日現在)	37,848人
世帯数(同上)	16,757世帯
平均年齢(2022年1月1日現在)	47.9歳
面積	15.33km ²
製造業事業所数(工業統計)	165所
製造品出荷額等(同上)	2,358.5億円
卸・小売業事業所数(経済センサス)	266店
商品販売額(同上)	1,482.1億円
公共下水道普及率	94.1%
舗装率	54.1%

資料:「令和3年埼玉県統計年鑑」ほか



主な交通機関

- 関越自動車道 所沢ICから町役場まで約2.5km
三芳スマートICから町役場まで約3.5km

「落ち葉堆肥農法」が生まれ、これにより土壌改良が行われ安定した生産ができるようになった。この農法は今もなお当地域に残り、都心から30km圏内という大都市近郊でありながら、開拓当時の「屋敷地・畑地・平地林」という特徴的な姿を維持している。

これを未来に継承するため、川越市、所沢市、ふじみ野市、三芳町、いるま野農業協同組合、埼玉県は「武蔵野の落ち葉堆肥農法世界農業遺産推進協議会」を組織し、平地林の育成と落ち葉堆肥を利用した伝統農法の継続を推進、多様な生態系の維持や地域産業、観光等の振興を図っている。こうした活動が実を結び、平成29年3月には日本農業遺産に認定され、令和3年10月には世界農業遺産認定に向け、国際連合食糧農業機関(FAO)へ申請書を提出した。

町では農業遺産を保全・発信・発展させていくため、秋には「世界一のいも掘りまつり」、1月には「体験落ち葉掃き」を実施している。また、落ち葉堆肥農法を学ぶために、一般を対象とした「農業遺産農業塾」、小学校高学年を対象とした「農業遺産学校農業塾」、その魅力を観光客などに伝えるコンシェルジュを養成する「コンシェルジュ養成講座」を開催している。さらに、この地域の魅力を知ってもらうため、三芳町上富地区に「農業遺産を巡る3つの散歩道」を整備した。

今後は、こうした活動を継続するとともに、世界農業遺産認定を見据えて、国内外からの視察者や観光客の受け入れ態勢を整え、世界農業遺産を通じた魅力ある地域の創出を目指している。

★ ガーデンツーリズムの推進

ガーデンツーリズムとは、「歴史的な価値のある庭園や植物園、公園などをめぐる旅行の形」を指す。これは欧米から始まったもので、観光客を地方に呼び込む手段としてイギリスを中心に普及し、イギリスではおよそ100年にわたってガーデンツアーが根付いている。

三芳町では、「みよし野ガーデンツーリズム協議会」を設置し、日本農業遺産が息づく「三富新田」の屋敷地、畑地、平地林を活かしたガーデンツーリズムの推進を図っている。庭園は、江戸時代に建立された多聞院や多福寺、令和の森公園などを巡り、特産品のさつまいもを楽しめる「いも街道」や「落ち葉掃き」「いも掘り」も体験できる。

新型コロナウイルスの感染拡大で移動自粛が呼びかけられるなかで、近場で観光を楽しむマイクロツーリズムを通じて、周辺住民に地域の魅力を発信していく。
(樋口広治)



落ち葉堆肥を生む「平地林」の紅葉